

特

集

緊急に求められた病害虫防除対策の事例を考える

徳島県内のモモ産地におけるクビアカツヤカミキリの撲滅に向けた取り組みと最近の発生状況

徳島県立農林水産総合技術支援センター なか 中 の 野 あき 昭 お 雄*

はじめに

徳島県北東部の板野郡板野町において、2015年7月にクビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* の発生とモモやサクラ等に対する甚大な被害が確認された。本種は国内では2012年7月に愛知県海部地域のサクラとウメで（愛知県、2013）、2013年7月には埼玉県草加市（加納ら、2014）のサクラで発生が確認され、その後2015年には、本県をはじめ、東京都福生市、群馬県館林市と大阪府大阪狭山市、2016年には東京都あきる野市、栃木県足利市でも確認された。しかし、本県以外はいずれも主にサクラでの発生であり、経済栽培の農作物での発生は、本県が国内では初めての事例であった。また、後述するように発見当初からすでに甚大な被害が数園で見られたことから生産現場からは早急にその対策を求められた。

以上のことから、本稿では当時有効な防除手段もない中、本虫の早期撲滅を目指して手探りで進めてきた取り組みとその取り組みを進める中での最近の発生状況を紹介する。

I 初動対応

2015年7月21日に板野郡板野町内の民家のブロック塀にとどまっていた本種成虫を一般の方が発見し、本県の外来生物所管部署に通報された。翌日、本県病害虫防除所にその情報が伝えられたが、農薬安全使用関係研修会参加や通常業務である発生予察巡回調査実施のため、即座に現場確認することができず、週明けの7月27日に農林水産省神戸植物防疫所とともに、発見地点周辺において発生および被害の状況を調査した。その結果、発見場所周辺のモモ園で、本種が原因と考えられる大量の

Efforts for Eradicate the Red-Necked Longhorn Beetle, *Aromia bungii* in Peach Orchards in Tokushima Prefecture and Latest Outbreaks. By Akio NAKANO

（キーワード：クビアカツヤカミキリ、モモ、発生状況、初動対応、クラウドファンディング）

*現所属：徳島県農林水産部東部農林水産局〈吉野川〉

フラスが排出された樹や成虫を4頭確認した。事態が想定よりもひどい状況であったことから、その後改めて7月29日と30日に地元JAの営農指導員の案内により、板野町内と鳴門市西部のモモ園やウメ園等を調査した。その結果、板野町内でモモ（スモモ含む）30園地、865樹のうち、17園地で130樹、ウメ8園地等（学校、寺院内の植栽樹含む）、318樹のうち、3園地等で7樹で被害（フラスの排出）を確認した。これを受けて、7月31日付けで特殊報を発表した。また、他県ではサクラの加害が主体であったことから、8月5日に同地域内の寺院、神社、学校と公園等に植栽されたサクラ樹も対象に調査した。その結果、植栽された54箇所、1,796樹のうち、9箇所で43樹で被害を確認した。このようにモモで被害発生園（以下被害園）、被害樹が多く、地区として板野町吹田と板野町川端においてその傾向が著しかった。被害はほとんどが老木樹で認められたが、中には7年生の樹でも認められた。以上のような被害状況から推測すると、本種は数年前より本地域に侵入し定着したものと考えられた。

これらの調査結果を受け、急ぎ同8月5日に板野町内のモモ生産者を集め、発生状況と防除対策を説明した。この時点で紹介した防除対策の内容は、①成虫捕殺、②幼虫の針金等を使った刺殺、③産卵防止と成虫捕殺をねらいとした地際部のネット被覆、④果樹類のカミキリ類に農薬登録のあった生物農薬（ボーベリア ブロンニア ティ剤）の処理であったが、③と④の有効性の程度は定かではなかった。このため、一般社団法人日本植物防疫協会（日植防）より年度当初に依頼され本県が受託した新農薬実用化試験の一つ、ナシのヒメボクトウを対象とした農薬「S-1675 エアゾール剤（後にロビンフッドとして登録）」の薬剤効果試験がこの時点で中止になっていたことから、これをモモの本虫に対する効果試験に変更していただき、またサクラ対象を追加で受託し8月21日より試験を開始した。また、捕獲した成虫を利用し室内において簡易な農薬の殺虫効果試験を実施した。